

製品名: カスパーゼ-10 B/C ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07962**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	pro: 60kDa, actived: 33kDa 12kDa

抗原情報

遺伝子名	CASP10
別名	ALPS2; apoptotic protease Mch-4; CASP-10; CASPA; caspase-10; FADD-like ICE2; FAS-associated death domain protein interleukin-1B-convert
遺伝子 ID	843.0
SwissProt ID	Q92851-2/4
免疫原	抗血清は、ヒトカスパーゼ 10 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 430-479

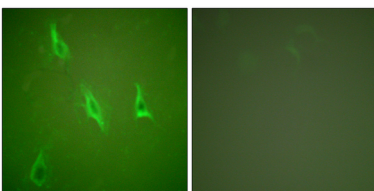
背景

この遺伝子は、システイン-アスパラギン酸プロテアーゼ（カスパーゼ）ファミリーに属するタンパク質をコードしています。カス

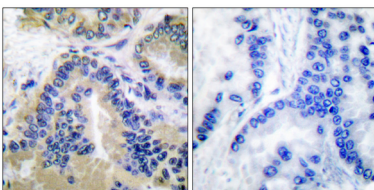
パーゼの連続的な活性化は、細胞アポトーシスの実行段階において中心的な役割を果たします。カスパーゼは不活性なプロ酵素として存在し、保存されたアスパラギン酸残基においてタンパク質分解を受け、大小2つのサブユニットを生成します。これらのサブユニットは二量体化することで活性酵素を形成します。このタンパク質はカスパーゼ3と7を切断・活性化し、それ自体はカスパーゼ8によって処理されます。この遺伝子の変異は、IIA型自己免疫リンパ増殖症候群、非ホジキンリンパ腫、および胃癌と関連しています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが報告されています。 [RefSeq 提供、2011年4月]、触媒活性: P1位に Asp が厳密に必要であり、Leu-Gln-Thr-Asp-|-Gly が優先切断配列である。、疾患: CASP10 の欠陥は、家族性非ホジキンリンパ腫 (NHL) [MIM:605027]の原因である。NHL は、体の免疫系の一部であるリンパ系の細胞で発生する癌である。NHL はどの年齢でも発症する可能性があり、多くの場合、リンパ節の腫れ、発熱、体重減少を特徴とする。、疾患: CASP10 の欠陥は、胃癌[MIM:137215]の原因である。、疾患: CASP10 の欠陥は、自己免疫リンパ増殖症候群 2A 型 (ALPS2A) [MIM:603909]の原因である。ALPS2 は、リンパ球および樹状細胞の恒常性異常と免疫調節異常を特徴とする。、機能: アポトーシス誘導を担うカスパーゼの活性化カスケードに関与する。FADD 依存的に Fas 受容体および TNFR-1 受容体の両方にリクルートされる。グランザイム B アポトーシス経路に関与する可能性がある。カスパーゼ 3、4、6、7、8、9 を切断し活性化する。小分子基質である Tyr-Val-Ala-Asp-|-AMC および Asp-Glu-Val-Asp-|-AMC を加水分解します。、機能:アイソフォーム C はタンパク質分解的に不活性です。、オンライン情報:CASP10 変異データベース、オンライン情報:ALPS タイプ II を引き起こすカスパーゼ 10 変異、PTM:グランザイム B による切断と自己触媒活性により、2つの活性サブユニットが生成されます。、PTM:DNA 損傷時にリン酸化されます (おそらく ATM または ATR による)。、類似性:ペプチダーゼ C14A ファミリーに属します。、類似性:2つの DED (デス エフェクター) ドメインが含まれます。、サブユニット:2つの逆平行に配置されたヘテロダイマーで構成されるヘテロテトラマー。各ヘテロダイマーは、23/17 kDa (p23/17) (スプライシング イベントによって異なる) と 12 kDa (p12)サブユニット (類似性による)。自己会合する。FADD および CASP8 と相互作用する。FAS、FADD、CASP8、CASP10 からなる Fas シグナル伝達複合体に存在。、組織特異性:ほとんどの組織で検出可能。脳、腎臓、前立腺、精巣、結腸で最も低い発現が認められる。、

研究分野

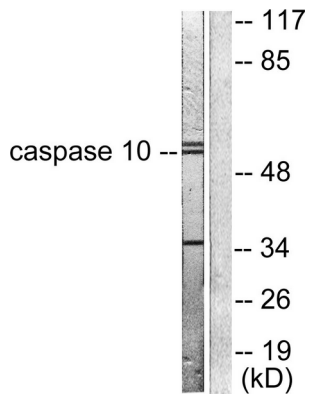
画像データ



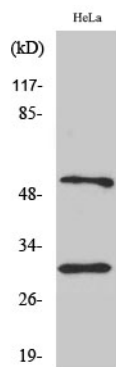
カスパーゼ 10 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした画像です。



カスパーゼ 10 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



HeLa 細胞ライセートのカスパーゼ 10 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーン
は合成ペプチドでブロッキングされている。



カスパーゼ 10 B/C ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析